

METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集 2025「大学と地域連携の未来」シンポジウム開催
こどもまんなか社会へ 大学と地域がつなぐ未来の絆

2月8日（土）、今回で9回目となる、2025 明海大学「大学と地域連携の未来」シンポジウムが開催されました。来学者を含め180人が参加しました。

開会式では、日本語学科4年の磯崎陽翔さん、鈴木凜果さん、吉野青空さんが総合司会を務め、中畠裕学長、足立区教育委員会中村明慶教育長、浦安市教育委員会船橋紀美江教育長からご挨拶をいただきました。

当日のプログラム

12:30 開会式

12:40-13:40 基調講演

講師：大谷美紀子 氏

（弁護士／国連子どもの権利委員）

演題：「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」
の実現に向けて

13:50-15:25 学生発表

グループA 大学生による日本語指導支援

グループB 留学生等による児童・生徒との交流

グループC 大学生による学習支援

15:30-16:35 パネルディスカッション

テーマ：こどもまんなか社会へ 大学と地域がつなぐ
未来の絆

16:35 閉会式

基調講演では、弁護士で国連子どもの権利委員の大谷美紀子氏から、子どもの権利条約、「こども基本法」と「こども大綱」の重要性、「こどもまんなか社会」とは何か、その実現のために必要なことなどについて示唆に富むお話をオンラインで伺いました。

地域連携事業についての学生発表では、都立高校や足立区、江戸川区、浦安市などで行われている日本語指導支援や学習支援、留学生との交流会などが紹介されました。

パネルディスカッションには、東京みらい中学校定野司校長、足立区教育委員会川瀬穰統括指導主事、東京都立南葛飾高等学校伊達崎広校長、本学学生の池内夏美さんと安田結貴さんが参加し、地域学校教育センター副センター長山本聖志教授のコーディネートのもと「こどもまんなか社会」の実現に向けて、現状と課題、解決策と取組、未来への提案について議論が行われました。



大谷美紀子氏による基調講演



総合司会の3人



グループCの学生発表



パネルディスカッションの様子

＜参加者アンケートから＞

【基調講演】「こどもまんなか社会」の実現に向けて、自分自身にできることは何かを考える良い機会となりました（学生）。こどもの人権について、自分の今までの認識が浅いことに気付かされました。これまでの歴史的な流れや世界の状況など、大谷先生だからこそ聞き取れた内容でためになりました（教育委員会）。

【学生発表】明海大学で実施されている教育支援がよくわかりました。教育における児童生徒との関わり方の重要性についても学びました（学生）。立派な体験、分かりやすい発表で、とても感銘を受けました（教員）。学生の取り組む様子が写真や話からよくわかりました（教育委員会）。

【パネルディスカッション】「こどもまんなか社会」のためにどのような課題があり、何を大切にすべきか根本的なことについて考えるきっかけになりました（学生）。様々な立場から現状に向き合った形でお話を聞かせてくださいました。どのお話も「こどもを大切にする」視点が一貫しています（教育委員会）。

浦安市 小学校英語支援

明海大学と浦安市教育委員会との連携協定に基づいて、学生が市内の公立小学校の外国語（英語）・外国語活動にボランティアとして参加し、授業の補助を行っています。今年度は、南小学校、舞浜小学校、明海小学校、高洲小学校、入船小学校の5校に外国語学部英米語学科の4年生8人と3年生4人が、週に1、2回、午前中の4時間、支援に行っています。授業では、担任や英語専科の先生、ALTの求めに応じて、対話の相手役や発音のモデルをしたり、児童への指示を補助したりしています。児童の間に入って、ペアワークの相手をしたり、英語のゲームに参加したりもします。



《参加した学生の声》

英語を通して児童とコミュニケーションを取れることがとても楽しいです。また、同じ学年でもクラスの特徴があり授業の進め方やサポートの仕方も違ってくるので勉強になることがたくさんあります。

明海小学校地区児童育成クラブ

浦安市の児童育成クラブは、いわゆる学童保育で、放課後や土曜日、長期休業期間等に、家庭に代わる生活の場を提供する事業です。その1つ「明海小学校地区児童育成クラブ」で、教職課程を履修する日本語学科の3年生4人と2年生1人が、学生ボランティアとして支援を行っています。市の委託を受けて労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団が運営をしており、毎日180人近い児童が通っています。児童は、小学校の校庭を走り回ったり、砂場や鉄棒等で遊んだりして楽しんでいます。また、児童育成クラブの庭でドッジボールやサッカーをしたり、屋内で地域の造形作家のボランティアとともに工作をしたり、静かに勉強をしている児童もいます。ボランティア学生は、児童が安全に安心して過ごせるように、時には児童に寄り添い、時には少し離れて見守り、あるいは児童たちの輪の中に入り、様々な形で児童支援クラブでの児童の生活を支えています。



教職アドバンス 2025 勉強合宿

3月7日から9日の2泊3日の日程で、勝浦のセミナーハウスにおいて教員採用選考の受験を希望する3年生を対象として恒例の勉強合宿を実施しました。今年は日本語学科6人、英米語学科4人の学生が参加しました。教職教養や専門教養、論文や面接、英語実技など、実際の選考内容に応じた多様な対策講座を開講するとともに、自主学修の時間を設けて、自ら課題を設定し、自分の意志と力でやり抜く姿勢を養う機会としました。また、自炊をして、まさに同じ釜の飯を食しながら、同じ目標を持つ仲間同士としての理解を深め、助け合うことの尊さを実感することができました。この合宿をきっかけとして教員採用選考に臨む心構えを確かなものとし、チームとして必ず皆で合格を獲得するという強い絆を結ぶことができました。



ウーロンゴン大学研修

2月15日から3月1日まで、オーストラリアのウーロンゴン大学での短期研修が行われ、英米語学科の3年生5人と日本語学科の3年生2人の7人が参加しました。明海大学生に用意された英語科教授法や特別授業の他、他大学の学生と共に学ぶ総合英語授業にも参加しました。参加した学生たちは皆、ホストファミリーに恵まれ、毎日美味しい手料理をいただいたり、ファミリーの子どもたちと遊んだり、休日に観光に連れていってもらったりと、現地での生活を十分に楽しむことができました。また、現地の学校を訪問し、日本語の授業に参加する経験もできました。この研修で得た成果を、これからの学生生活や進路希望の実現に活かしていくことを期待します。



アゴラ活用状況(人)	
2月	77
2018年度からのべ数	69,553